

令和5年度

旧課程

3学年

シラバス

令和5年度 シラバス

教 科	科 目	学 年	ク ラ ス	単 位 数
地理歴史	日本史 B	3年文系	1～2	4
教 科 書		副 教 材		
改訂版詳説日本史B（山川出版社）		最新日本史図表 ポテンシャル日本史基礎力養成編・用語ベストセレクト		
科 目 の 目 標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
単 元 ・ 学 習 内 容	学 習 到 達 目 標			
第9章 近代国家の成立 ・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争 ・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の来日経過と、尊攘運動から討幕運動への転換を理解する。 ・明治新政府による近代化の過程を、廃藩置県や殖産興業等いくつかの重要用語を使って説明できる。 ・不平士族の反乱が自由民権運動へ転換し、民権運動も、西洋思想の影響を受けなどして変化していることを理解する。 ・諸法典の整備や立憲体制の確立と条約改正の関心に留意する。 ・日清・日露戦争の国内政治等への影響と諸外国との関係を理解する。 ・近代産業形成の特質を理解する。 ・明治文化への外国文化の影響と、伝統文化との関係に留意する。 			
第10章 近代日本とアジア ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・市民文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の日本への外交的・経済的影響を理解する。また戦争中、日本政府のとった政策に留意する。 ・大戦後の軍縮への動きと日本政府・軍部の動きに留意する。 ・大正デモクラシー・大衆社会の特徴に留意する。 ・世界恐慌打開への動きと軍部勢力の台頭、ファシズム化の動きの強化と太平洋戦争へいたる関連に留意する。 			
第11章 占領下の日本 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの占領目的、具体的な施策、日本社会の変化と不変な部分に留意する。 ・冷戦の占領政策に与えた影響、西側社会に立った日本の独立達成と国連加盟への動きに留意する。 			
第12章 高度成長の時代 ・55年体制 ・経済復興から高度成長へ	<ul style="list-style-type: none"> ・西側の一員として、経済復興に取り組み、高度成長を達成し、国際社会の一員として重要な地位を占めつつあること、他方で公害問題の発生等の負の部分をもつこと等を理解する。 			
第13章 激動する世界と日本 ・経済大国への道 ・冷戦終結と日本社会の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結の過程、その後の世界の状況の激変等をふまえ、それらが日本の政治・経済・外交に与えた影響について理解する。 			
まとめと確認の演習	<ul style="list-style-type: none"> ・原始・古代から現代まで、通史的に再確認をし、日本歴史の特長について理解を深める。 			

令和5年度 シラバス

教 科	科 目	学 年	ク ラ ス	単位数
地理歴史	地理B	3年文系	2	4
教 科 書		副 教 材		
新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)		新編地理資料2022 (とうほう) 新地理要点ノート (啓隆社) 新地理の研究 (啓隆社) 2022データブックオブザワールド (二宮書店)		
科 目 の 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等の事象を通して現代世界の特色を系統地理的に考察する。 ・現代世界を地域 (市町村規模、国家規模、州・大陸規模) のスケールをふまえながら地誌的に考察する。 ・現代世界の諸課題 (国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題) の現状と背景を理解し、解決策を探る。 ・地理という科目が世界をとらえるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を言える力を身につける。 		
単 元 ・ 学 習 内 容		学 習 到 達 目 標		
第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察				
4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化の意味を理解し、世界における衣食住の特徴と多様性、地域的差異について考察する。 ・民族と言語、宗教について、その関係や特色、国語や公用語をめぐる事例や問題、宗教問題などについて理解する。 ・現在も続く領土問題と民族問題の事例と原因をあげ、解決の難しさを理解するとともに、民族共生のために必要な相互理解について理解を深める。 		
第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察				
1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か 2節 地域区分のさまざまなスケール		<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分によって、地域の特色や他地域とのつながりが理解しやすくなることを理解させる。 ・地域区分のスケールをかえることで、他地域との違いや地域内の共通性が明確になることを理解させる。 		
2章 現代社会の諸地域 1節 地誌の考察方法 2節 東アジア 3節 東南アジア 4節 南アジア 5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア 9節 アングロアメリカ 10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴を把握するための三つのアプローチ (項目ごと・最も特徴的な項目と関連づけて・他地域と比較して) の方法を理解する。 ・系統的地理で学習してきた内容を踏まえながら、以下の点から世界の諸地域について考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境 (地形環境、気候環境、環境問題) ・産業 (農林水産業、鉱工業、商業・余暇活動) ・人口、都市問題 ・生活文化 (衣食住、民族、宗教問題) ・貿易、交通、国家間の結合 		
3章 現代世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本の社会の変化とその要因について理解し、日本が国際社会で果たすべき役割について考察する。 		
まとめと確認の演習		<ul style="list-style-type: none"> ・演習問題をとおして地理の系統的内容と地誌的内容の復習をする。 		

令和5年度シラバス

教 科	科 目	学 年	ク ラ ス	単位数
地理歴史	地理B	3年理系	3～6	3
教 科 書		副 教 材		
新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)		新編地理資料2022 (とうほう) 新地理要点ノート (啓隆社) 新地理の研究 (啓隆社) 2022データブックオブザワールド (二宮書店)		
科 目 の 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境、資源・産業、都市・村落、生活文化等の事象を通して現代世界の特色を系統地理的に考察する。 ・現代世界を地域 (市町村規模、国家規模、州・大陸規模) のスケールをふまえながら地誌的に考察する。 ・現代世界の諸課題 (国家間、日本の近隣諸国、環境・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題、民族・領土問題) の現状と背景を理解し、解決策を探る。 ・地理という科目が世界をとらえるうえで重要であることを理解するとともに、世界の諸問題に対して考え、自分の意見を言える力を身につける。 		
単 元 ・ 学 習 内 容		学 習 到 達 目 標		
第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察				
4章 生活文化、民族・宗教 1節 生活文化 2節 民族と宗教 3節 現代世界の国家 4節 民族・領土問題		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化の意味を理解し、世界における衣食住の特徴と多様性、地域的差異について考察する。 ・民族と言語、宗教について、その関係や特色、国語や公用語をめぐる事例や問題、宗教問題などについて理解する。 ・現在も続く領土問題と民族問題の事例と原因をあげ、解決の難しさを理解するとともに、民族共生のために必要な相互理解について理解を深める。 		
第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察				
1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分とは何か 2節 地域区分のさまざまなスケール		<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分によって、地域の特色や他地域とのつながりが理解しやすくなることを理解させる。 ・地域区分のスケールをかえることで、他地域との違いや地域内の共通性が明確になることを理解させる。 		
2章 現代社会の諸地域 1節 地誌の考察方法 2節 東アジア 3節 東南アジア 4節 南アジア 5節 西アジアと中央アジア 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ 7節 ヨーロッパ 8節 ロシア 9節 アングロアメリカ 10節 ラテンアメリカ 11節 オセアニア		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特徴を把握するための三つのアプローチ (項目ごと・最も特徴的な項目と関連づけて・他地域と比較して) の方法を理解する。 ・系統的地理で学習してきた内容を踏まえながら、以下の点から世界の諸地域について考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境 (地形環境、気候環境、環境問題) ・産業 (農林水産業、鉱工業、商業・余暇活動) ・人口、都市問題 ・生活文化 (衣食住、民族、宗教問題) ・貿易、交通、国家間の結合 		
3章 現代世界と日本		<ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本の社会の変化とその要因について理解し、日本が国際社会で果たすべき役割について考察する。 		
まとめと確認の演習		<ul style="list-style-type: none"> ・演習問題をとおして地理の系統的内容と地誌的内容の復習をする。 		

令和5年度 シラバス

教科	科目	学年	クラス	単位数
保健体育	体育	3年男女	1～6	2
教科書		副教材		
現代高等保健体育 改訂版 (大修館書店)		アクティブスポーツ (大修館)		
科目の目標	①各種の運動を適切に行わせ、自己の体力に応じて運動を行う能力や態度を養うとともに、体力の向上を図る。 ②運動実践を通じて公正、協力、責任などの態度を養い、心身の健全な発達を促す。 ③生涯を通じて、継続的に運動できる能力を育てる。 ④体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。			
単元・学習内容	学習到達目標			
体づくり運動	・自己の体に関心をもち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができる。 ・体づくりに対する意欲・関心を高め、互いに協力して運動を行うことができる。 ・体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫することができる。			
体力テスト	・自己の体力、運動能力の現状を把握し、効果的に体力の向上を図ることができる。 ・テスト種目の測定方法や実施上の注意を理解し、正確・安全に実施することができる。			
陸上競技	・走跳投の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。 ・互いに協力して練習や競技を行い、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。 ・課題の解決を目指し、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。			
ダンス	・フォークダンスの動きの特徴を理解し、互いに教え合いながら踊りを身に付けて、誰とでも楽しく踊ることができる。			
球技	・チームの課題や自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かしたゲームができる。 ・チームにおける自己の役割を理解し、互いに協力して練習やゲームができる。 ・勝敗に対して公正な態度をとり、健康・安全に留意して練習やゲームができる。			
選択A	サッカー	(個人技能) ボールコントロール、ドリブル、トラッピング、パス、シュート (集団技能) 3対1、3対2、スルーパス、壁パス、センターリング (ゲーム) 簡易ゲーム、チームの特徴に応じ、隊形や戦術を考えたゲーム		
	ソフトボール	(個人技能) スローイング、キャッチング、打撃、走塁 (集団技能) チームの特長を生かして作戦を立て、具体的な実践の場を想定しながら協力して攻防ができるようにする。		
	テニス	(個人技能) サービス、フォアハンド、バックハンド、ボレー (ゲーム) 簡易ゲーム、シングルス、ダブルス		
雨天時	バレーボール	(個人技能) パス、レシーブ、トス、スパイク、ブロッキング、サービス (集団技能) 円陣パス、ランニングパス、サービスレシーブ、チームフォーメーション (ゲーム) バスゲーム、簡易ゲーム、正規ゲーム		
	バスケットボール	(個人技能) パス、シュート、キャッチ、ストップ、ドリブル、 (集団技能) 2対1、2対2、スクリーンプレイ、マツマンディフェンス、ゾーンディフェンス (ゲーム) 2対2～3対3 (ハーフコート)、3対3～5対5 (オールコート)		
選択B	バドミントン	(個人技能) サービス、ストローク、フライト (ゲーム) 簡易ゲーム、シングルス、ダブルス		
	卓球	(個人技能) ボールコントロール、サービス、フォアハンド、バックハンド、スマッシュ、ハーフボレー、ショートカット、カット (ゲーム) 簡易ゲーム、シングルス、ダブルス		
	バレーボール	(個人技能) パス、レシーブ、トス、スパイク、ブロッキング、サービス (集団技能) 円陣パス、ランニングパス、サービスレシーブ、チームフォーメーション (ゲーム) バスゲーム、簡易ゲーム、正規ゲーム		
	バスケットボール	(個人技能) パス、シュート、キャッチ、ストップ、ドリブル、 (集団技能) 2対1、2対2、スクリーンプレイ、マツマンディフェンス、ゾーンディフェンス (ゲーム) 2対2～3対3 (ハーフコート)、3対3～5対5 (オールコート)		
体育理論	1. 運動・スポーツの文化的特徴 2. 運動スポーツの学び方 3. 豊かなスポーツライフの設計			